

# インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）トウキョウケイザイダイガク	フリガナ）ケイエイガクブ	フリガナ）ヤマモトサトシゼミナール
東京経済大学	経営学部	山本聡ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）ヒガシヤマトハン	フリガナ）ニシカワマコト	8	無
東大和班	西川 諒		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）

## 研究テーマ（発表タイトル）

多摩における地域への愛着と食文化～ひがしやまとの食の今昔物語による検証～

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要（目的・狙いなど）

食文化を活用した都市郊外（今回の研究では東大和市）の地域活性化を目的とする。現在日本では人口減少が問題視されているが、東京多摩地域では、ベッドタウン化により現在人口は微増している。しかし、多摩地域でも、数年後は人口が減少してしまうという予測がされている。

すでに人口減少が生じている地方では、食文化を活用した地域活性化が多く行われている。地方だけでなく多摩地域にも食文化は存在するが、その食文化を活用した研究はほとんど存在しない。そのような多摩地域の中でも東大和市は人口や面積などが平均的であり、独特な食文化も存在する。そのため、東大和市の独特な食文化である粉食文化を活用し、地域活性化の実施と検証が可能であると考えた。イベントを体験してもらうことで、新しく東大和市に流入してきた人には地域に対する愛着を形成してもらい、元々市で暮らしている人にはより地域に対する愛着を増加してもらうことで地域活性化を図り、効果を検証する。

### 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

近年、人口減少が進んでおり、その問題は東京都の多摩地域にまで及んできている。このことは論文でも指摘されており、畦地・米田・中垣（2015）によると、「現在人口が増加している地域であっても、今後減少していくと予想される」と言われている。また、その理由の1つとして、「都市部への通勤者が、まさに寝だけの場所としてその地域を利用するだけであり、地域に対する

誇りや愛着を持たないから」とある。そこで、東京都多摩地域の郊外住宅地である東大和市を研究対象として取り上げる。東大和市人口は現在微増しているが、予測を見ると 2020 年をピークに減少するとされている。また、昼夜間人口を見ると、東大和市では夜間人口が昼間人口を上回っており、昼夜間人口比率が東京都全体・市部全体の数値と比較して低く、まさに典型的な郊外住宅地の性質を持っているということがわかった。さらに、世代が若くなるにつれ定住意向が減少しているということから、市民の愛着を向上させる必要があると考えた。

一方、人口減少が先行している地方では、食文化を活用した地域活性化が多く行われているため、活性化に有効な手段の 1 つなのではないかと考えた。例えば、埼玉県川越市で特産品のさつまいもを使った芋版アートなど文化に触れるイベントを行っている。長野県諏訪市には郷土料理おやきを作る体験ができるおやき村が存在する。山梨県甲府市では、昔から食べられているほうとうの味比べイベントを行っている。しかし、研究としては地方を対象とした歴史的な文献が多く、東京郊外における食文化を活用した活性化研究はほとんどない。実際に、東京郊外である東大和市に食文化が存在するのかを調べるためフィールドワークを行ったところ、東大和市にも、粉食文化という独特の食文化が存在することを発見した。

### 3. 研究テーマの課題

上記のような、ベッドタウンの特徴を持つ東大和市中で、どのように地域の独特な食文化を活用すれば、地元住民に愛着を持ってもらえるかを考え、効果を検証することが課題である。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

愛着と食文化をつなぐものとして、物語性が有効であるということが先行研究からわかった。また、物語性とは、安田(2010)によると「地域の歴史やストーリー」であるということがわかった。

東大和市の物語を知るために東大和市中でのフィールドワークを行った。その調査により、東大和市中では昔からお米より小麦の栽培が中心だったという歴史があり、それに関連した郷土食があることがわかった。その中で、さつまだんごは市の食文化・歴史の象徴の一つであるが、現在東大和市民にさえあまり知られておらず、「失われつつある郷土食」であることを発見した。また、この地域一帯で武蔵野うどんが有名なことから市の特産品として東大和市商工会が開発した「ひがしやまと茶うどん」があり、市の食文化・歴史の集大成と考えられる。

これらのことから、東大和市中には「粉食文化」という物語があり、「ひがしやまと茶うどん」は、昔から今に至る「市の物語」を伝えるツールとなる。これらを踏まえて私たちは「ひがしやまとの食の今昔物語」を提案する。地域の食文化を発信し歴史を知ってもらうイベントを実施し、アンケートや観察データにより検証する。

### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

私たちは、都市郊外における食文化を活用した地域活性化を実証するための手法としてイベントを開催し、その中でアンケート調査を行うことにした。織田(2006)によれば、イベントは、「情報発信・地域のイメージアップとなり、地域文化を伝えるうえでは効果的」であるとされ、地元住民に地域の食文化を知ってもらい、これらにより愛着を持ってもらう上で有効であると考えた。また、竹田・藤木(2013)では「観察者が自ら特定の集団の一員となって調査を行うことで、集団のメンバーと親しくなり、より詳細な定性データを収集することが可能になる」と言われており、イベントの中で東大和市のコミュニティに私たちも参加し市民の方々とコミュニケーションを取りながらアンケート調査を行うことが重要であるということがわかった。

「ひがしやまと茶うどん」と「さつまだんご」を「東大和市の物語」として提供することで、地域住民の愛着向上を目指す、ということを目的とし、市の食文化・歴史を伝えるイベントを企画した。東大和市商工会と連携し 9 月にイベントを開催した。検証人数は 21 人である。東大和市民をターゲットに設定し、市内でのチラシ配りやポスター掲載等で東村山市役所産業振興課、東大和市市民グループ観光ガイドの会の方とも協力関係を築いた。

イベントでは、下記の 4 つを行った。

- ①東大和市の食文化・歴史の集大成である「ひがしやまと茶うどん」を地場野菜と共に提供する
- ②「失われつつある郷土食」である「さつまだんご」の新しい食べ方をゼミ生が提案し、参加者の方々と作る
- ③観光ガイドの会と協力し作成した東大和市の歴史クイズを行う

#### ④イベント後にはアンケート調査を行う

以下がアンケート内容である。

#### ①「ひがしやまと茶うどん」知っていたか

#### ②市の郷土食である「さつまだんご」を知っていたか

#### ③東大和市に「粉食文化」の印象を持っていたか

#### ④東大和市と聞いて、「粉文化」の印象は高まったか

#### ⑤ひがしやまと茶うどん・さつまだんごの背景となる歴史・文化に興味を持てたか

## 6. 結果や今後の取り組み

イベントにて東大和市民に地域の食文化を紹介・解説し、体験してもらい、物語への理解を深めてもらうことによって、その食文化に対し好感を持ってもらうことが可能であるとわかった。この好感を維持・向上させることで、地域住民に慣れ親しんだ食文化を持つその地域に対する愛着を持たせることが可能であると考え。つまり、都市郊外においても、食文化を活用した地域活性化は有効である、ということがこの研究でわかった。今後、第 2 回目のイベントを開催し、それを通じて、都市郊外における食文化の活用による地域活性化の有効性をより検証していくとともに、地域の食文化に対する愛着をより多くの人に維持・向上してもらうことを目指す。

## 7. 参考文献

- 畦地真太郎、米田真理、中垣勝臣（2015）『地域アイデンティティを鍛えるー観光・物流・防災ー』成文堂
- 内堀輝志（1995）『多摩湖の村』遊無有社
- 小金井市・東村山市・清瀬市・東久留米市・東大和市（昭和 50 年）『多摩の歴史 2』明文社
- 竹田茂生、藤木清（2013）『リサーチ入門ー知的な論文・レポートのためのー』くろしお出版
- 武蔵野美術大学生活文化研究会代表 田村善次郎『東大和の生活と文化』東大和市教育委員会
- 東大和市多摩湖遺跡群調査会（1980）『多摩湖の歴史 湖底の遺跡と村の発掘』東大和市教育委員会
- 安田亘宏（2010）『食旅と観光のまちづくり』学芸出版社
- 渡邊勉（2006）『地域に対する肯定観の規定因ー愛着度、住みやすさ、地域イメージに関する分析ー』
- 久保田愛実・羽鳥剛（2015）『地域の物語との共和制認知と住民共同事業への参画に関する研究』
- 園田美保（2002）『住区への愛着に関する文献研究』
- 「さつまだんご」『日本の食べ物用語辞典』(<http://japan-word.com/satsuma-dango>)(閲覧日 2017/08/04)
- 「東京都総務局」『多摩を取り巻く状況 2015』(<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/05gyousei/06sinkoutamaplan.html>)(閲覧日 2017/09/25)
- 「東京都総務局統計部」『平成 22 年国勢調査による東京都の昼間人口 2012』(<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/tyukanj/2010/tj-10index.htm>)(閲覧日 2017/09/25)
- 「都道府県市町村シンボル情報」『東京都市町村地図』(<http://expo.minnade.jp/tokyou.html>)(閲覧日 2017/05/18)
- 「川越 水先案内板」『川越の魅力を拡げて繋げて伝えよう！地域をつなぐ豊心祭』(<http://kawagoe-info.net/walk-kawagoe/hoshinsai/2>)(閲覧日 2017/08/16)
- 「関東経済産業局 産業部流通・サービス産業課 コミュニティビジネス推進チーム」（2016）『コミュニティビジネス事例集』(<http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/community/data/2016jirei-seihonprint.pdf>)(閲覧日 2017/08/16)
- 「東大和市」（2017）『年齢別人口統計表』

(<http://www.city.higashiyamato.lg.jp/index.cfm/36,75520,c,html/75520/20170404-162917.pdf>)(閲覧日 2017/05/25)

- 「東大和市」(2017)『東大和市ブランド・プロモーション指針』(<http://www.city.higashiyamato.lg.jp/index.cfm/36,76625,c,html/76625/20170605-145659.pdf>)(閲覧日 2017/05/25)
- 東大和市商工会(2010)『東大和ってこんなところ』([http://e-yamato.or.jp/yamatoji/images/yamatoji\\_city.pdf](http://e-yamato.or.jp/yamatoji/images/yamatoji_city.pdf))(閲覧日 2017/05/18)
- 「東大和市」(2016)『統計東やまと』(<http://www.city.higashiyamato.lg.jp/index.cfm/36,80414,c,html/80414/20170822-144634.pdf>)(閲覧日 2017/05/25)
- 「富士観光ネット」『富士の国やまなし』(<http://www.yamanashi-kankou.jp/kankou/event/pe-8201.html>)(閲覧日 2017/08/16)
- 「武蔵野うどん」『うどん百科事典』(<http://udon.mu/musashino>)(閲覧日 2017/07/06)

#### ＜企画シート作成上の注意＞

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BPマーケティング社様に作製していただく大会結果HPに本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

---

**↑ ここまでを4ページ以内におさめて、提出してください**